



子どもを「認める」家庭での関わり

校長 原 浩一郎

「うらやす」の4月号で、「ことばを大切にする学校づくり」について記載しました。本校ではチャレンジ目標として、「上宇部小3進(しん)あいさつ・ふわふわ言葉・授業前準備」を掲げており、この中で「ふわふわ言葉」が、「ことばを大切にする学校づくり」の一環として位置付けたものです。

そして、このような学校づくりは、家庭とも連携して推進することで、より一層効果が上がる、つまり、子どものよりよい育ちにつながると考えています。

家庭での「ふわふわ言葉」とはどんなものでしょうか？ それは、子どもを「認める」関わり(言葉かけ)ではないかと思えます。子どもは、おうちの方に「認めてほしい」と思っています。そして、認められることにより、自己肯定感を高めていきます。

自己肯定感が高い人は、前向きに物事に挑戦し、失敗してもめげずに試行錯誤しながら解決に向かっていくことができ、また、自分や周りの人を尊重できるため、よい人間関係を築くことができると言われています。

では、子どもが「認められている」と感じる関わり(言葉かけ)とはどんなものでしょうか？ 例えば、以下のようなものだと思います。

◇子どもの話をよく聴いて肯定する

子どもが話しかけてきた時は、肯定的な態度でしっかりと聴くことが大切です。子どもは「自分が受け入れられている」という感覚をもちます。

◇「感謝する」「労(ねぎら)う」

家庭生活の中での些細な行為に対してでも、子どもは「ありがとう」等の感謝の言葉や「がんばったね」等の労いの言葉をかけられると、自分の行いや自分自身に対する自信を高めることにつながります。

◇「結果」ばかりではなく「がんばりの過程」をほめる

結果ばかりをほめていると、結果に対する意識が強くなり、失敗した時に、「自分はだめだ」と感じてしまうことがあります。がんばっていた過程を認めてもらえると、結果はうまくいかなくても、自分の取組を肯定的に捉えることにつながります。

上に例示したことは、すでに実践されていることばかりかもしれませんが、今一度、子どもを「認める」関わり(言葉かけ)について確認していただけたら幸いです。